

1.事業実施までの背景 今年度から新たに開始

■事業実施に至る背景

- B&G財団では、全国465カ所に自治体の社会体育施設である「B&G海洋センター(艇庫・プール・体育館)」を建設。各地方自治体(主に教育委員会管轄)と協働で、子供たちを含めた地域住民に、スポーツや自然体験活動の機会提供のほか、地域コミュニティを活性化するための各種事業を展開している。
- 2015年度からは、東京2020大会を見据え、身体的・経済的にハンディキャップがある子供たちを対象に「体験格差解消」のための事業にも着手。障害児や児童養護施設に暮らす子供たちなどに水辺の自然体験活動を提供している。

■課題

- 「B&G海洋センター」は、地域の「スポーツとコミュニティの拠点施設」として住民に親しまれており、当財団も障害者の体験格差解消に取り組んでいるが、海洋センターは人口が少なく財政規模の小さい自治体に建設・運営されていることもあり、障害者スポーツを充実できるまでに至っていない施設がある。



■東京2020大会の終了を機に、障害者が気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを加速度的に進めることとした

- 「東京2020大会」を機に、障害者スポーツ(パラスポーツ)への関心が高まったものの、一般の障害者にとっては、健常者と比べスポーツ実施率も低く、気軽にスポーツを親しむ機会が少ない。B&G海洋センターでも、近隣住民や子供たちを対象としたスポーツ等の教室は広く行われているが、それと比較して、障害者を対象とした事業への取り組みは十分であるとは言えない。
- そこで、地域の公共スポーツ施設である「B&G海洋センター」で、近隣の障害者が、多様なスポーツやレクリエーション活動を継続的に楽しめる環境を整え、スポーツやレクリエーションに親しむ機会を提供することで、障害者のスポーツ実施率向上とスポーツライフを豊かにすることを目的に、本プロジェクトに着手することとした。



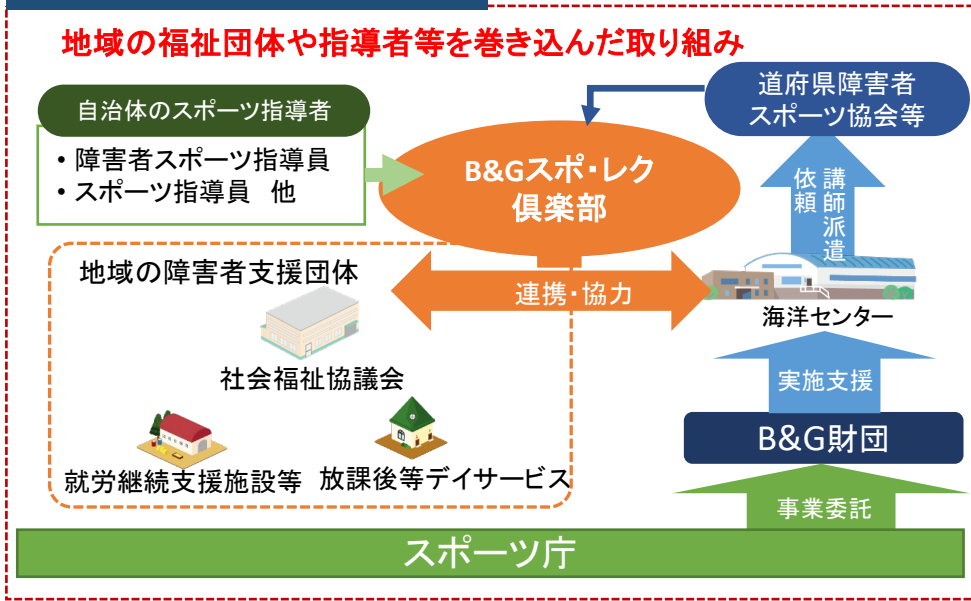
■全国のB&G海洋センターから以下の3自治体をモデル地域として、自治体とも協働で開始

初年度の実施モデルとして、異なる地域・周辺環境・対象の観点から、以下の3自治体をモデルに選び、プロジェクトを開始した

- ①東北地方 岩手県奥州市前沢B&G海洋センター
- ②東海地方 静岡県御前崎市B&G海洋センター
- ③九州地方 熊本県宇城市三角B&G海洋センター

2.事業概要

(1) 事業推進体制



(2) 実行委員会 メンバー

	氏名	所属
委員長	藤田 紀昭 氏	日本福祉大学 スポーツ科学部部長
委員	田口 亜希 氏	日本パラリンピアンズ協会 副会長
委員	金子 知史 氏	日本財団 子どもサポートチーム チームリーダー (元日本財団パラリンピックサポートセンター推進戦略部 ディレクター)
委員	及川 浩行 氏	岩手県 奥州市前沢B&G海洋センター(前沢いきいきスポーツランド)
委員	土屋 あづさ 氏	静岡県 御前崎市B&G海洋センター(公財 御前崎市振興公社)
委員	松下 和史 氏	熊本県 宇城市三角B&G海洋センター(宇城市教育委員会)
委員	東條 剛之	B&G財団 事業部 部長

①「B&G障害者スポ・レク倶楽部」の立上げおよび実施

- 【内 容】地域の福祉施設等の障害者を対象とした年間を通じたスポーツ・レクリエーション教室「B&Gスポ・レク倶楽部」を立上げ、パラスポーツ等の教室を開催
【ねらい】近隣の障害者団体等と連携し、海洋センター近隣の障害者が気軽にスポーツやレクリエーションを実施できる環境を整える

②指導者研修会とボランティアの育成

- 【内 容】障害者スポーツ等についての知識と指導技術を学ぶ 指導者並びにボランティアの研修会
【ねらい】「スポレク倶楽部」の運営協力者として、指導者やボランティア等を育成する

③地域運営委員会の開催

- 【内 容】障害者支援団体など、本プロジェクトに関わるステークホルダーとの状況共有や意見交換
【ねらい】障害者支援組織や団体など、地域の障害者に関わるステークホルダーと協働できるよう組織化することで、今後の自走化を目指す

④「インクルーシブフェス」の開催

- 【内 容】障害者を含む地域住民を対象としたパラスポーツなどの一日体験会
【ねらい】健常者と障害者が一緒に活動することにより、障害について考え理解を深める機会とする

3.事業内容 各実施地における活動内容【岩手県奥州市】



① スポ・レク倶楽部の実施

- 活動の特徴: 地元にある障害者福祉施設を対象に実施。ボッチャが盛んな地域でもあるため、ボッチャをはじめ、様々な軽スポーツやパラスポーツなどを行っている。
- 主な対象: ひまわり園(知的障がい者通所授産施設)、白梅の園(就労継続支援B型事業所)、スマイリー(生活介護施設)
※その他スペシャルオリンピックス岩手に所属する選手を対象として、全10回のボッチャ教室を予定していたがコロナにより中止
- 実施内容: ボッチャ・スマイルボウリング・卓球バレー・ラダーゲッター等の軽スポーツ
- 実施回数および参加者数: 全6回 219名(障害者:159名 福祉施設職員等60名)(※その他中止10回)
- 地域における連携団体: 奥州市教育委員会、奥州市協働まちづくり部・奥州市スポーツ推進委員会、知的・身体障がい者協会、岩手県障がい者スポーツ協会ほか、各種前沢地区身体障がい者団体
- 成果: 「スポ・レク倶楽部」を立上げ実施したことにより、障害者スポーツの理解と普及に貢献できた。また地域の関係者にも理解・協力いただくことで今後の活動継続にも繋げることができた。
- 課題等: コロナの全国的感染拡大(特に奥州市は過去最大の感染者数)により、当初スケジュール通りに実施できないことが多かった。



■感想等
参加者からは「楽しかった。また、やりたい」との声を多くいただいた。普段の生活でスポーツに取り組む機会がほとんどない入所者たちの笑顔や歓声を聞いて、実施側もパワーややりがいを感じている

② 指導者研修会とボランティアの育成

日時	場所	主な受講者	主な内容	受講者
7月20日	奥州市前沢B&G海洋センター	前沢いきいきスポーツクラブ職員・奥州白山地区センター長・活動員、ひまわり園スタッフ	フライングディスク指導者講習会 講師:あすなら園長 井上 君之氏	10名



③ 地域運営委員会の開催

- 検討事項等: 倶楽部活動について、ボッチャ体験・交流会について 等
- 回数: 6回
- 対象: 岩手県障がい者スポーツ協会・奥州市協働町づくり部生涯学習スポーツ課・前沢明峰支援学校・身体障がい者福祉会・ひまわり園・奥州市スポーツ推進委員会 等
- 成果: 行政ほか地域の障害者団体、関係者等が一堂に会し検討を行ったことで、今後の活動の継続性を担保できた。
- 課題: 持続可能な組織への発展

④ インクルーシブフェスの開催

- 障がいの有無、世代に関係なく誰でも楽しめるボッチャを通じ、障がい者への理解を深めるとともに、大切なのは障がいの有無ではなく、コミュニケーションであることを実感した交流会。
- 日時: 2023年2月19日(日)
 - 場所: 奥州市前沢B&G海洋センター
 - 内容: ボッチャ体験・交流会
 - 参加者: 119名(スポレク倶楽部等障がい者18名、地域住民・親子等 101名)
 - 講師: ボッチャ日本代表 廣瀬 隆喜氏 ボッチャ日本代表監督 村上 光輝氏



3.事業内容 各実施地における活動内容【静岡県御前崎市①】

① スポ・レク倶楽部の実施

- 活動の特徴:放課後デイサービス等の障害児や市内外の障害児・障害者を対象とした体育館レク活動とプール教室
- 主な対象:放課後デイサービス(リカバリー池新田・リカバリー佐倉・ひまわり池新田・リカバリー牧之原、リカバリー菊川加茂)、個人の障害者
- 実施内容:体育館でのレク活動、室内プールでの水遊び・水慣れ～泳法習得・水中運動 等
- 実施回数および参加者数:全70回 971名(障がい者490名、付添等481名)
- 地域における連携団体:御前崎市(教育委員会・社会教育課・福祉課・健康づくり課)、放課後デイサービス、社会福祉協議会
- 成果:運動習慣により子供たちの生活にも良い効果が生まれている
事業回数を重ねていくことで、子供の利用者人数が増加。保護者からは「運動により、子どもの寝つきが良くなった」「着替えなど進んで行えるようになった」「家にこもりきりの休日に、外出する用事ができ、生活にメリハリができた」「運動不足の解消に繋がっている」などの感想をもらい、良い効果が生まれている。
- 課題等
障害児(幼児～小学生)のプール教室は大変人気があり、定員を増やしながら対応しているものの、受入れ側の指導者が不足している状況である。一方、中学生以上を対象とした障害者水泳教室は、固定の参加者が多く、新たな参加者の獲得が出来ていない。



屋外プールでカヌーや遊具を使ったレクリエーションも実施。参加者にも好評であった



② 指導者研修会とボランティアの育成

日時	場所	主な受講者	主な内容	受講者
10月17日	御前崎市民プール ぷるる	海洋センター職員、御前崎振興公社職員、放課後デイサービス職員、市民ボランティア	障害者スポーツ指導について(講義・実技・ワーク) 講師:静岡県障害者スポーツ協議会 波多野 俊哉氏	16名

■感想等:普段は障がい者との関わりをもたない職員や、普段から障がい者との関わりを多くもつ地域の事業所の方が初顔合わせをした勉強会となった。初めて「ボッチャ」を実践し、参加者、場所を選ばず、一緒に楽しめるスポーツであるということが分かった。また、指導方法や対象者が楽しむためのプログラムを考える時間は様々な意見が出て大変有意義な研修会となった。



③ 地域運営委員会の開催

- 検討事項等：スポレク倶楽部の取り組み紹介、支援現場が求めていることなど
- 回数：2回
- 対象：放課後デイサービス職員等
- 成果等：支援現場の要望を早速プログラムに導入するとともに、新たな教室への要望についても試験的に実施するなど、現場の意見を教室運営に反映させることができた。また、本会を機に障害者施設間の横の繋がりから、市外の事業所も興味を持ち参加してくれるようになったなど、スポレク倶楽部の活動にも反映されている。

④ インクルーシブフェスの開催

障がい児と健常児が合同チームでブラインドサッカーを体験。障がい者への理解促進のほか、相手を思いやる想像力やコミュニケーションの大切さを学ぶ。

- 日時：2023年1月28日（土）
- 場所：御前崎市B&G海洋センター
- 内容：デモンストレーション、ブラインドウォークによる視覚障がい体験
ブラインドサッカー体験・ゲーム大会 等
- 参加者：101名（障がい児27名、地域の幼・小・中学生31名、福祉施設職員・保護者等43名）
- 講師：ブラインドサッカー選手 辻 一幸氏（ソイエ葛飾）
- 成果等：住民等成人参加者へのアンケートによると、「このようなインクルーシブ事業を今後も望むか」の質問に100%が「はい」と回答。

【参加者感想】「ブラインドサッカーは周りが見えないので声や音の大切さを感じた」「障がい者だけでなく困っている人への声掛けの工夫や、人助けをする気持ちにつながる体験会だった」



プール活動の様子



体育館活動の様子



文化プログラム 多肉植物で飾り付け作り



屋外プールでの活動

3.事業内容 各実施地における活動内容【熊本県宇城市①】



① スポ・レク倶楽部の実施

■活動の特徴

障害者でも実施できるモルック競技を通じ、障害者団体のみならず、宇城市の市立小学校2校にも訪問し、子供たちにモルックを通じた障害者理解を促進させるなど、波及効果も生まれている。

- 主な対象:NPO法人あいランド(就労継続支援B型事業所)、松橋東支援学校、障害者ワークセンターみすみ
※その他スペシャルオリンピックス宇城も予定していたがコロナにより中止

■実施内容

軽スポーツ(縄跳び、竹馬、フラフープ、各種ボール、卓球、バドミントン、ミニバレー、ヘルスバレー、室内グラウンドゴルフ等)、ポッチャ、モルック 等

- 実施回数および参加者:全8回 168名(障がい者60名、福祉施設職員等108名)(※その他中止2回)

- 地域における連携団体:宇城市教育委員会、宇城市スポーツ推進委員、知的・身体障害者協会関係者、熊本県障がい者スポーツ協会 等

- 成果:地域の障がい者福祉団体との新たな繋がりが生まれ、スポーツをする機会が少なかった地域の障がい者が、スポーツを楽しむための環境が整った

- 課題等:安心安全な運営を行うため、障害者への接し方なども含め、指導者の更なる指導力向上が必要である



② 指導者研修会とボランティアの育成

日時	場所	主な受講者	主な内容	受講者
7月17日	宇城市三角 B&G海洋セ ンター	宇城市スポーツ推進委員	パラスポーツ講習会①(モルック) 講師:菊地市スポーツ推進委員 会長 小林親孝夫氏	31名
10月26日		宇城市スポーツ推進委員三角 支部・体育協会三角支部	パラスポーツ講習会②(モルック・ポッチャ) 講師:宇城市教育委員会 松下和史氏	8名

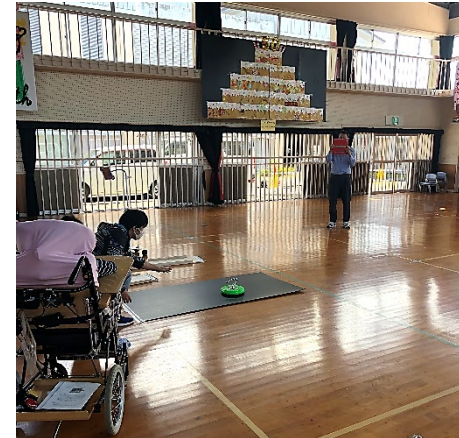


上記研修会参加の指導者等が、11月13日に宇城市立三角小学校、11月19日に宇城市立不知火小学校を訪問し、児童にモルック体験を実施。モルックを通じ、子供たちにも障害者理解を促進した

3.事業内容 各実施地における活動内容【熊本県宇城市②】

③ 地域運営委員会の開催

- 検討事項等: インクルーシブフェスの実施と振り返り、今後の障害者スポーツ普及について
- 対象: 体育協会・スポーツ推進委員、宇城市教育委員、地元施設代表・校区の体育会会長等
- 回数: 4回
- 成果等: インクルーシブフェスタは各団体の協力のもと目標100名を超える参加があった。モルックは身障者・健常者ともに楽しめるスポーツであるとの共通認識ができた。地域には(今回の参加者以外にも)障害者の方もいるため、今後は各団体のレクリエーション事業などでモルックを活用していくなど新たな活動の幅が広がった。



支援学校でもスポーツ体験会を実施

④ インクルーシブフェスの開催

視聴覚障がいの疑似体験やサイレント伝言ゲームを通じ、伝える難しさや信頼関係を築く大切さなどについて学ぶ

- 日時: 2022年12月3日(日)
- 場所: 宇城市三角B&G海洋センター・体育館
- 内容
・講演会:「障害者もスポーツがしたい ～スポーツができる環境を～」
・視覚障がい者体験(アイマスク歩行体験)
・障がい者と健常者の交流会(モルック大会)
- 参加者: 111名(就労継続支援B型事業所「あいランド」障がい者等30名 ほか地域住民・親子81名)
- 講師: 世界ジュニアパラ選手権日本代表ガイドランナー、スポーツ庁J☆STARプロジェクト 熊本県障がい者スポーツ指導者協議会所属 柴尾 源太氏
- 成果: 宇城市で初めて障害者と健常者の交流会の場を開催。障害者の方をはじめ、地域の親子連れなど111名が参加。モルックでは、障害者チームと健常者チームを対戦相手にする事で、お互いに交流を図ることができ、大いに盛り上がった。
- 課題: 初めての開催であり、お互いの交流を図る機会となったが、更なる理解促進を深めるためにはプログラム内容も工夫していく必要がある。



インクルーシブフェス モルック交流会



インクルーシブフェス ブラインドウォーク体験

【参加者の声】:「みんながとても楽しんでいた。このような機会があるのは大変ありがたい」(参加した障害者福祉施設職員)

4.事業成果および課題と今後について

■事業成果

■各実施地において、地域の障害者が継続的にスポーツに取り組める基盤(環境)が整った

- ①地域にある障害者福祉団体と社会体育施設(海洋センター)とで、新たな関係性を確立し、組織化することができた
- ②地域における障害者スポーツ団体や人など、障害者に関わるステークホルダーとネットワークを構築することができた
- ③障害者指導に関する新たな人材を育成することができた

■共生社会の実現に向けたスポーツ事業を具現化

- 岩手県奥州市、静岡県御前崎市、熊本県宇城市の「総合計画」や「スポーツ推進計画」で政策として掲げられている障害者を含む地域住民へのスポーツ推進の具体的事例として具現化することができた。

■課題と今後について

①コロナ感染拡大の影響

障害者福祉団体が、外部講師の受入れ禁止など、予防対策をとったため、当初計画通り進まなかった地域もあった。特に夏場の全国的な感染拡大により、当財団の特徴である水辺でのアウトドアスポーツ体験が実施できなかった。

- アウトドアでの自然体験活動は、青少年の育成のみならず障害者にとっても良い効果があることがわかっている。今後は、その効果の周知を図り、様々なスポーツの可能性を広げ、屋内での身体活動のみならず、障害者にもチャレンジできるアウトドアスポーツの実施にも目を向けていく。
- Withコロナとして、通常の社会活動が戻りつつあるが、障害者を対象とした事業やイベント等は未だ中止や縮小することも多い。障害者にとっては今まで以上に外出機会や身体を動かす機会も減少し、健常者とのスポーツ実施率の差が更に広がることも懸念されるため、単に感染を防ぐために中止するのではなく、その対策をとりながら実施していく

②自走化と定着化に向けた取組み

第2ステージとして事業の自走化とスポーツ習慣の定着化を図るために…

- ・事業経費について、受益者負担や企業協賛、支援者の獲得なども考える必要がある
- ・新たな障害者支援団体や組織と連携し、参加対象者(障害者)を広げていく
- ・事業協力者を拡大できるよう、地域のステークホルダーだけではなく、障害者スポーツ団体との関係性を更に高め、タイアップ事業などを企画していく
- ・教室運営のサポーターを獲得できるよう新たな指導者やボランティアを発掘していく

③全国展開に向けて、モデルケースを増やしていく必要がある

B&G財団は、全国465カ所のB&G海洋センターとネットワークを構築し、自治体と協働で各種事業を展開している。本事業は海洋センターにおける、継続的かつ年間を通じた障害者を対象としたスポーツ教室のモデルとして、異なる地域の3カ所を選定し実施したが、海洋センターは、海岸部や山間部、温暖・寒冷など、様々な環境の違いがある。そのため、障害者を対象としたスポーツ教室を加速度的に推進していくためには、地域の実情に合わせた形で導入できるよう、更なる事例(パターン)を増やしていく必要がある。

【今後の展開】

■全国のB&G所在自治体と情報共有し、障害者スポーツ事業の展開を図る

B&G財団は「行政」「教育」「指導者」に関するネットワーク(プラットフォーム)を構築しており、様々な事業を全国的に普及させていくスキームを確立している。その事業展開スキームを使い、今年度の活動事例のみならず、今後もモデル事例を展開し、当財団のネットワーク組織【B&G所在自治体首長会議(行政)、B&G全国教育長会議(教育)、B&G全国指導者会(指導者)】などを活用して、全国のB&G所在自治体と情報を共有し、障害者スポーツ事業の更なる普及を図る

公益財団法人
ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
(B&G財団)
事業部事業課 小野田
連絡先:03-6402-5313